

令和2年9月4日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

大豆におけるハスモンヨトウの防除対策の徹底について

8月中旬及び9月上旬の巡回調査において、県内各地でハスモンヨトウによる大豆の食害が確認されています。既に薬剤防除が行われている圃場もありますが、白変葉の発生や幼虫が多い圃場が見られます。また、県内各地におけるハスモンヨトウのフェロモントラップへの誘殺数は、8月下旬から増加傾向で、平年よりも非常に多い誘殺が確認されている地域が多い状況です（図1）。

本虫は高温乾燥で発生が助長されますが、1ヶ月予報（9月3日・福岡管区气象台発表）によると、気温が高い確率が80%、降雨量が多い確率が50%の予報となっています。

今後、開花期から若莢期に基幹防除が実施されますが、ハスモンヨトウに効果のある薬剤を選定し、防除を徹底願います。

【作物】 大豆
【病虫害】 ハスモンヨトウ

防除上の注意事項

- ア 本虫は、始め孵化した幼虫がまとまって葉を食害し（白変葉）、その後成長とともに分散するが、分散後は薬剤がかかりにくく、老齢になるにつれて薬剤の効果が低下するので、早期防除に努める。
- イ 白変葉の発生に注意し、10aあたり50枚の白変葉が確認されたら、即時防除する。
- ウ 薬剤散布については、農薬使用基準（使用量、使用時期、使用回数等）を遵守するとともに、周辺作物への飛散防止対策を徹底する。

ホームページアドレス <http://www.jpnpn.ne.jp/oita>



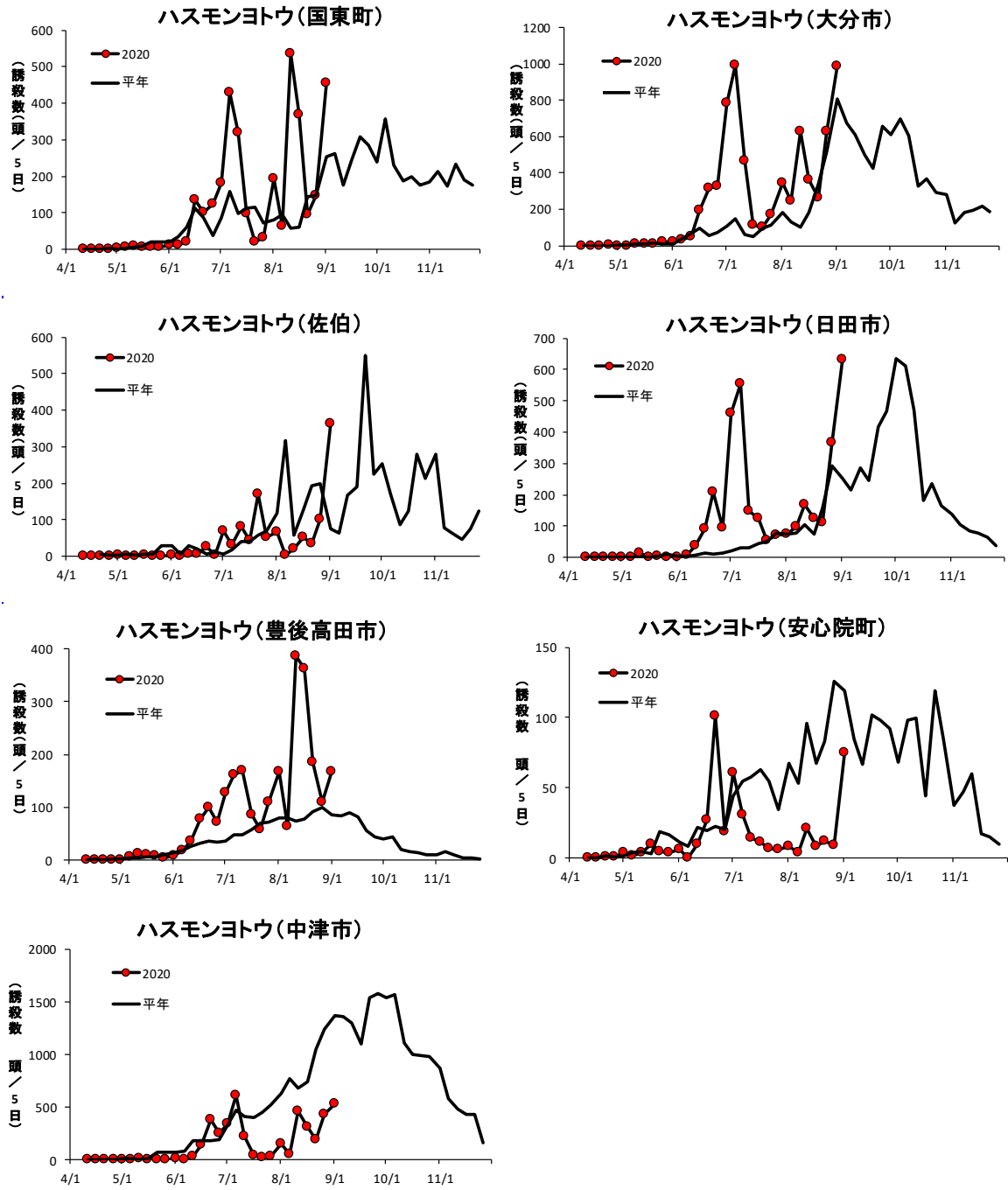


図1 ハスモンヨトウのフェロモントラップ誘殺状況